



正人会 会報

平成23年秋 第1号

発行者：和歌山市議会 絆クラブ
編集：和歌山市議会議員 戸田正人

連絡先：〒640-8156 和歌山市七番丁23 和歌山市議会 絆クラブ
073-435-1115

爽やかな秋風が頬を撫ぜていく季節となってきましたが、台風12号の影響で和歌山県に残された傷跡は多く、県都和歌山市としてもリーダーシップを取って一日も早く行方不明の方々の捜索、被災地の復旧に取り組まなければならないと思っています。また本市における災害時の対応や心構えについても早急に方向性を見出す必要性を感じます。

また、市民一人の力は微力ですが無力ではないはずで、行政の災害に対する対策も急務ではありますが、市民ひとりひとりが自覚をもって自主防災意識を高める事も大切になっていきますので、より地域の皆様と行政が密に連携をとって行かなければならないとも考えています。

さて、早いもので皆様方のご支援をいただき、和歌山市政壇上にお送りいただくから、約半年。

日々、議会活動や市民の皆様のご要望にところ狭しと動き回らせて頂いておりますのも、ご支援いただいた全ての方々のお蔭です。心より感謝いたします。

後援会活動

四月の和歌山市議会選挙では3062票という、多くの得票をいただきました。

振り返ってみますと二月の寒い時期に四箇郷有本地区の国道沿いに後援会事務所を設置し、事務所開きを執り行いました。四年前に落選してから多くの皆様に集まっていた機会もなかった私に、地元の皆様を始め友人、知人、多くの方々にご参集いただきました事は、厳しい闘いが予想される四月の和歌山市議会議員選挙戦に向けて、この上ない勇気と希望を頂くことになりました。

それからは、寒い日、雨の日もありましたが皆様方へ後援会活動としてご挨拶にお伺いする日々の中、ご訪問先で「コーヒーでも飲んでいけよ」「飯でも食うか？」
「まあ上へあがれよ」などなど心が温かくなるようなお言葉をかけて下さり、くじけそうになった時も私の背中を押してくれました。

その様な日々を過ごしながら、いよいよ四月十七日の告示日を迎える事となりました。

選挙戦

4年前の苦い思いが常に頭によぎってしまう私は、出陣式にはどれだけの方が来ていただけるのか、或いは一人も来てくれないのではないかと考えているうちに東の空が明けてきたのでした。



やっぱり眠れず迎えた朝だったのです。

なんとも言えない緊張感で迎えた朝、洗面を済まし、朝食をとり、妻と二人で氏神さんに必勝祈願に参詣し、先祖のお墓に手を合わせ、選挙事務所に向かいました。

しかしその不安とは裏腹に沢山の方がお見えになったいるではありませんか。
勇気百倍！私は「やるなら今しかない！」「聞きます市民の声を！」を第一声にマイクを力いっぱい握り締めたのでありました。



第1回目の発表 1000票
第2回目の発表 2900票

そして最終3062票という予想もしていなかったほど多くの得票をいただき堂々たる順位で当選させて頂く事ができました。

中でも四箇郷小学校体育館での個人演会には400名以上の方々が御越し頂き心より御礼申し上げたいと思います。

運命の4月24日の投票日



初登庁

そして5月に入り、和歌山市臨時議会の招集がありました。四年ぶりに市役所3階の議会へ出向き、真新しい議員バッヂを職員さんから付けていただきました。

戸田正人第二の和歌山市議会議員としての幕が明けたのです。

いよいよ臨時議会が開会されます。議会の始まりを知らせる予鈴がなり、私は他の議員さんより一足早く議場に入り着席し、じっと目を閉じました。



四年間の苦しかった日々が走馬灯のように駆け巡りました。四年間愚痴ひとつ言わずスーパーでアルバイトをし家計を支えてくれた妻、世間からの強い風を受けながらも必死に学校に通った子供達、そして私を支えてくれた父親、祖母、親戚、何よりも四年間ずっと声を掛け励まし続けてくれた友人、知人の仲間達、全ての人達の顔が浮かび、いつしか私の目頭に熱いものが込み上げてきました。また再スタートを切ることが出来た喜びと、応援して下さいました皆様に感謝の意を込め、そして責任感をしっかり噛み締め議席に深く腰掛けた瞬間でした。

私は議員12名が所属する保守系党派「絆クラブ」に所属し、建設企業常任委員会委員、紀ノ川大堰関に関する和歌山市議会議員連盟の事務局長、和歌山市監査委員などの職に着任させて頂いています。

監査委員とは地方公共団体の執行機関のひとつで、地方公共団体の財務や事業について監査を行う機関であり、議会からは多くの議員先輩たちが歴任してきた議会三役と呼ばれている議長、副議長、監査のうちのひとつの要職です。

和歌山市監査委員として大橋和歌山市長の議案提出された後、議員の皆様方のお計らいと議会承認を経て正式に和歌山市監査委員役職に着任するものでもあります。

被災地へ

3月11日に皆さんご存知のように東日本大震災が発生し多くの犠牲者と壊滅した町を報道等で知りました。

当時、4月の選挙に向けて後援会活動をしている真っ只中で、私も議員を目指す一人として被災地に行って少しで



もお役に立つことをしたい気持ちを持ちながらも行く事ができなかったため、臨時議会が終了するや否や、私達、絆クラブ会派で東日本大震災の被災地である岩手県大槌町に視察を兼ねたボランティア活動にも参加してまいりました。

私達が行ったボランティアは民家に溜まったヘドロをかき出し、そしてショベルを使って土のう袋に詰めていく作業でした。



ヘドロを手作業で燃えるものと、そうでないものと分別作業するのですが、そのヘドロの中から出てくる写真、日記、ノートなど被災された方々の思い出が出てくる度に「せめて思い出だけでも取り出したい！見つけてやりたい！」そんな熱い思いに駆り立てられながら一心不乱に作業したのでした。

作業が終わってボランティア集合場所へ戻る防波堤道路で年老いた住民と私達はすれ違いました。

年老いたご老人は深々と頭を下げながら「ありがとう」「ありがとう」と何度も私達に向かって言ってくれるではありませんか・・・

そのお姿を見て、私は作業が終わった後の汗と涙が入り混じり住民の全てを奪い取った津波を憎んだのでした。

しぼり出すようにかけてくれる一言が、どれだけ力強く、精一杯生きようとする住民の言葉であり、その言葉に対し全国から集まり無言で頑張るボランティアがいる。

全国の至る所から集まり少しでもお役に立てたい、被災者に希望と勇気を持ってもらいたい、ひとり一人は小さな力かもしれないけれど被災者、被災地のためにと言う気持ち一心で集まってきたボランティア。

住民の代表として、友達の代表として、会社の代表として被災地を訪れ「凜」と活動している！



これが世界に誇れる私たちは日本人なんだ、そんな思いに駆り立てられました。



そして私はガレキの撤去も進んでいない、ひっくり返った車両がそのまま放置している防波堤道路で見つけたモノがありました、それは・・・

「一輪のたんぽぽ」

海水が流れきて草木をも育ちにくい土になってしまった被災地に、ひとときわ希望の太陽のように咲き誇っていた。

はるか遠くの町から「希望」のタネが飛んできて、この地に降り立ったに違いない、たった一輪だけの「たんぽぽ」だったけど、とてつもない大きな希望の花に見えた。

今回の復旧作業がなかなか進んでいない被災地をこの目でみて、あらためて政治に求められるのは力強いリーダーシップであり、判断力、そして決断力であると強く感じたのでした。

まさしく台風12号の影響で和歌山県も人的災害がおこり、県都和歌山市が何を行動し、何を市民に呼びかけ、何を備えるのか、自然災害を避けて通れない局面に私達和歌山市民もその渦中にいるのだという事を、政治家が強いリーダーシップをもって発信していかなければならないと感じています。

自衛隊

自衛隊は今回の東日本大震災において6600体のご遺体を収容し、約20000人の人命救助をした。

はたして私達国民は自衛隊という認識を、戦後の偏った人達の情報の中で誤解や誤認をしていないだろうか？

まず自衛隊は個人の幸せという考えが全くなく、全ては自己犠牲の精神から始まっており、自分の事や家族などよりも、被災者の人々のためにという「心」だけを軸にして任務にあたっていたそうです。

政府の対応が遅くとも、自衛隊がいたからこそ復興が前へ進んだのではないのでしょうか？



普段から一線で私達国民を他国から守るといふ、しっかりとした目的意識を持って厳しい訓練をしている自衛隊だからこそ活躍できたのです。

和歌山市議会では議員の一般質問に対して大橋和歌山市長は「本市に災害が起こった際には、自衛隊の方々にも応援要請をかけたい」との答弁もされました。

それは私達が平素から自衛隊を理解し、常に感謝の意を持ち、災害時には即座に和歌山市に駆けつけてくれる位的意思疎通が必要不可欠でもあると考えています。

議会活動

最後になりますが、和歌山市議会建設企業常任委員として建設局、消防局、水道局の審査を中心に活動しております。特に自然災害に対する本市の備えや、今後の対策が議論の中心になっており、和歌山市民の関心が災害、防災対策に目を向けておられるのが顕著に表れています。市民が安心して暮らせるために基盤整備も大切ですが、政治や行政からの情報発信も必要不可欠であり市民を混乱や不安に駆りたてる前に正確な情報を確実にお届けすることが大切と考えています。

さて和歌山市の一般財政、公営企業（水道や下水）状況は単年度別で見ると黒字会計ではありますが、過去の借り入れ、起債償還などを鑑みると赤字財政となります。また特別会計（国保や介護保険）も同様に単年度黒字ではありますが、一般財源からの繰り入れなどで補填されており、全てにおいて予断が許されない財政状況でもあります。

そのような状況下であっても市民の皆さんが夢の持てる構想を語り、実現していくのが議員の責務でもあります。

現在和歌山市にはコミュニティーセンター10館構想というのがありますが、私はその拠点をもう少し細分化しながら、ミニコミセン&コミタウン構想を提起し、市民ライフ活性化ビジョンを掲げ、市民同士の交流、介護予防における健康促進、文化交流、そして自主的防災の観点からも地域防災の拠点作り、地域連絡所の自主運営など、和歌山市内各地におけるコミュニティータウンを築き、それに伴う地域住民が交流できる複合センターを構築していきたいと思っています。

和歌山市議会議員